

セルリー（セロリ）

使用産地：長野県、静岡県、福岡県、沖縄県など

使用目的：

セルリー（セロリ）は、肥料および地力を多く使う作物で、土壌改良を行うことにより収量の改善が図られやすくなります。また、夏場の一番暑い時期、反対に一番寒い時期に収穫を行うこともあり、ゲリラ豪雨、長雨、暖冬など天候の影響を受けやすく、そのため少しでも土による緩衝能力を高め安定栽培が出来る土づくりにコフナは役立っております。

各地の推奨使用法を参考に当地に合わせた使用方法にてご使用ください。

添付資料

[福岡等冬場に収穫産地向けチラシ：セロリチラシ福岡](#)

[長野等夏場に収穫産地向けチラシ：セロリチラシ長野](#)

[静岡等冬場の露地セロリ栽培向け資料：露地セロリ向け土壌改良方法](#)

[沖縄の使用事例](#)

福岡県 厳寒期の秀品率・収穫量の向上、品質（香り）の向上

■コフナ・ソーラー法（太陽熱消毒時にコフナ投入）

有機物（モミガラ・ワラ・米ぬかや堆肥）とコフナをすきこみ、1ヶ月以上太陽熱消毒を実施。最大のポイントは十分な水分と、収穫終了後できるだけ早く実施すること。

※緑肥やワラを入れて実施する場合は、土の炭素率を整えるために窒素分を投入して下さい。（砂地の場合は特に）

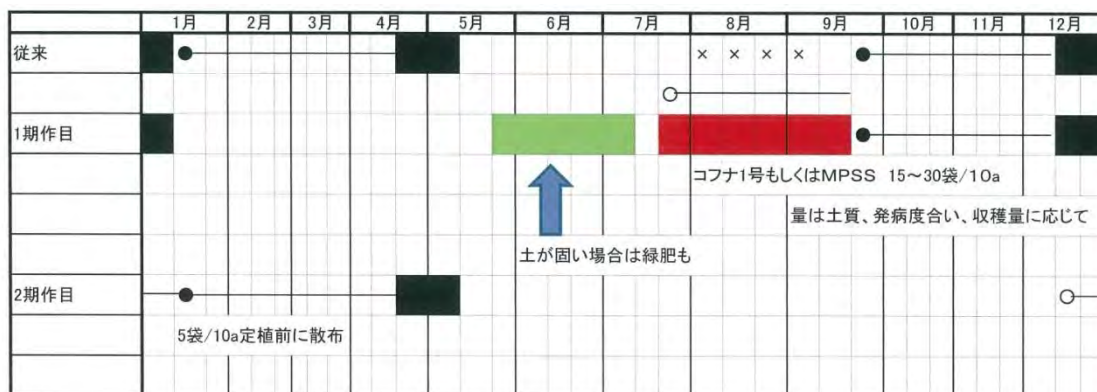
■冬場の定植前に

1期作目終了後直ちにコフナを5袋／10a程度すきこみ定植を実施する。

※白化対策としては、活着を出来るだけ早くし毛細根の動きを活発にさせる必要があります。その対策としてコフナをお勧めします。

■3期作を実施する場合

年間3回セロリを作付けする場合は、年間2回作付するよりも腐植を消耗し、病原菌の増殖のリスクが高まります。コフナのみで対応する場合は、コフナ・ソーラー法で実施する期間を最大限長く取り、より熱を上げるためにハウス内の施設が壊れない程度まで閉め切り、温度をかけて下さい。コフナの使用量も20袋／10a以上使用して下さい。



○ 播種 ● 定植 ■ 収穫 ■ コフナ・ソーラー法 ■ 緑肥 × 薬剤消毒



長野県 酷暑を乗り越えて、秀品率・収穫量の向上、生育の向上

施設の場合

土壌薬剤消毒とコフナの組み合わせ

(1) 冬場収穫終了後に直ちに薬剤消毒を実施する場合

ガス抜きをする際にコフナ1号もしくはMPSSを

10～20袋/10aをすき込み

※春に収穫する場合も同様です。微生物を繁殖する時間を最大限取ってください。

(2) 夏場に消毒する場合

コフナMPSSを10～20袋/10aを散布後、薬剤消毒実施。

微生物のエサとなる米ぬか等の有機物を必ず同時に施用してください。

※基本的にコフナと土壌消毒の同時施用は避けてください。栽培体系上どうしても施用せざるを得ない場合には、微生物を先にできるだけ多く繁殖させ、それから消毒を実施してください。消毒により全滅することはありません。同時施用の場
合は影響を最小限にするためにコフナMPSSの施用をお願いします。

露地の場合

収穫後、堆肥等有機物の投入時、もしくは緑肥のすき込み時などに

※必ず有機物と一緒にコフナを投入

秋収穫後にコフナを投入できなかった場合は、次作の元肥・定植時にコフナを投入

(分解が進むため、C/N比の高い有機物をすき込む際は、その後の窒素飢餓に要注意)

定植時に

植え穴に、フランスコフナ2袋/10a分をそれぞれの穴に分けて投入

可能であれば圃場全体にもコフナ1号・MPSSを5～15袋/10a投入

育苗場面で

培土にコフナを1～1.5%まで混和


※コフナ1号の場合は1ヶ月以上前、フランスコフナであれば直前でも可

静岡県

露地の場合

- ①排水性不良を改善する。(排水不良が考えられる場合。)
 - ・畑が乾燥している状態でサブソイラーを使用し畑全面に鋤を入れる。
→耕作土の下から石が出てくる場合があります。
- ②緑肥作物を使用する。
 - ・播種は全面にバラ播きトラクターで浅く耕す。
エンバク類を使用し、1月中旬の播種、5月中旬までのすき込みを行う。
→播種より100日程度ですき込みを行うことで、堆肥で約2トン相当の有機物の補給量となります。すき込みが遅れると落下子実から発芽する場合があります。
- ③緑肥を分解させる。
 - ・エンバクをハンマーナイフ(トラクター草刈り機)にて破碎する。
 - ・すき込む際にコフナを10袋/10a散布し、梅雨時期の雨を利用し緑肥を短期間で分解させる。(この時に肥料分が少ない場合は発酵鶏糞を投入してもよい。)
 - ・土としっかり混和するよう耕す。
- ④8月より通常の施肥、土壌消毒、うね立を行ってください。

作業体系

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
← 緑肥生育期間				← 緑肥の分解			↑ 土壌消毒	← 栽培期間				↑ サブソイラーなど
												

- ※ 緑肥の種類によって栽培期間、分解に必要な期間は変わります。
- ※ 土壌消毒を行った場合でも、深い部分に生息しているコフナは消毒されません！

施設の場合

前作終了後、出来るだけ早くコフナソーラー法を開始する



静岡県浜松市

沖縄県

地 域: 八重瀬町具志頭・玉城ほか

経営面積: 1,800 坪×2 回転

土 質: ジャーガル

栽培品種: トップセラー(セルリー)

収 穫 量: セルリー 2018 年は約 24t/1,400 坪

使用経緯: JA に強く勧められたため

使用結果: セルリーで初めて2回転に成功 (生育が早くなったため2回転にチャレンジ)

※当時2~3年前に2回転をトライしたが出来なかった

→根の量や長さが変わった

→排水性が改善された …台風あとの戻り(回復)が早い



使用数量: コフナMPSS 15袋/10a (海藻系資材やソルゴーと一緒に) ※2年目

7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
播種		定植期間: 9/-2/上旬									
					収穫期間: 12/-4/末						
土づくり(コフナ)							空いた圃場から緑肥栽培				

前日はドシャ降りだったが...



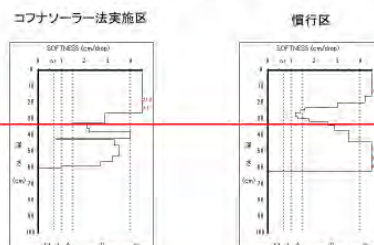
収穫直後の土壌



先程のセルリーの根っこ...



セルリー圃場の土壌硬度



※コフナソーラー区のほうが、作土層が広がっている